

2 江戸後期の岡山県邑久郡周辺における地域医療研究

—中島家文書をもとに—

松村 紀明¹⁾、木下 浩²⁾、梶谷 真司³⁾、鈴木 則子⁴⁾

¹⁾帝京平成大学ヒューマンケア学部看護学科, ²⁾元岡山県立博物館学芸員

³⁾東京大学総合文化研究科, ⁴⁾奈良女子大学生生活環境学部

中島家は、岡山県邑久郡（現瀬戸内市）において、江戸後期から現在の長期に渡って周辺地域社会の医療活動に貢献している医家である。中島家の代々の医師たちは、地域社会において様々な医療・医薬活動を行ってきており、それに関連した資料が大量に残されていることが判明している。

例えば、中島友玄（なかしまゆうげん：1808（文化5）年～1876（明治9）年）は、産科・外科を得意・専門としていたが、「鍼灸施治姓名録」などから鍼灸施治を行っていたことが判明している（中島・松村「「鍼灸施治姓名録」について—幕末の岡山県邑久郡周辺における鍼灸記録」第111回日本医史学会総会, 松村「江戸期在村医の医療活動—岡山県邑久郡中島家文書の鍼灸記録から」日本医史学会・2011年11月例会）。また彼の残した配剤記録「配剤謝義姓名録」などから、通常の診療行為として薬の処方を行っていたことや、文書から患者の居住地が分かりそこから中島家の診療圏を明らかできる（木下「中島友玄の患者の通院圏」第112回日本医史学会総会）。また、「売薬弘所姓名録」などから広範囲な売薬活動が行われていたことも判明している（梶谷「江戸期在村医の製売薬—岡山県邑久郡中島家の関連文書の分析から」第111回日本医史学会総会, 梶谷「江戸期在村医の医療行為における製売薬—岡山県邑久郡中島家文書の調査から」日本医史学会・2011年10月例会）。さらに、産科の医療記録として「回生鉤胞代臆」なども存在する。

上記の諸記録の個々の分析は重要であり、現在もそれぞれ進行中である。

しかしながら、これらの記録は成立時期が重なっており、さらに多くの記録には地名・日付・患者名が明記されており、明らかに同一人物と考えられる患者名も散見され、異なる医療記録をお互いに付き合わせる事が可能である。

本発表においては、これらの記録を付き合わせることによって中島家の地域における医療活動の意義や特色を明らかにし、邑久郡周辺における地域医療の共時的な実態を立体的・具体的に捉えることを目指し、地域医療史研究の一事例として提供することを目的としている。